



（発行所）

青山同窓会
〒951 新潟市関屋下川原町2-635
新潟県立新潟高等学校内
TEL 025-266-5268
FAX 025-266-5268
（編集、発行人）
上村光司
（印刷所）
オリオン印刷 ㈱
〒950 新潟市南出来島1-19-1
TEL 025-283-2151
FAX 025-283-3804

ごあいさつ

青山同窓会会長 50回 上村光司



皆様、新しい年をいかがお過ごしでしょうか。ご健勝で、総会などでお目にかかれるのを楽しみにしています。

皆様、新しい年をいかがお過ごしでしょうか。ご健勝で、総会などでお目にかかれるのを楽しみにしています。

皆様、新しい年をいかがお過ごしでしょうか。ご健勝で、総会などでお目にかかれるのを楽しみにしています。

皆様、新しい年をいかがお過ごしでしょうか。ご健勝で、総会などでお目にかかれるのを楽しみにしています。

皆様、新しい年をいかがお過ごしでしょうか。ご健勝で、総会などでお目にかかれるのを楽しみにしています。

皆様、新しい年をいかがお過ごしでしょうか。ご健勝で、総会などでお目にかかれるのを楽しみにしています。

皆様、新しい年をいかがお過ごしでしょうか。ご健勝で、総会などでお目にかかれるのを楽しみにしています。

皆様、新しい年をいかがお過ごしでしょうか。ご健勝で、総会などでお目にかかれるのを楽しみにしています。

皆様、新しい年をいかがお過ごしでしょうか。ご健勝で、総会などでお目にかかれるのを楽しみにしています。

皆様、新しい年をいかがお過ごしでしょうか。ご健勝で、総会などでお目にかかれるのを楽しみにしています。

皆様、新しい年をいかがお過ごしでしょうか。ご健勝で、総会などでお目にかかれるのを楽しみにしています。

平成八年度 青山同窓会総会

一九九六年七月十二日（金）
ホテル新潟において開催。藤

誠総会実行委員長の開会で始まり、上村会長・佐藤校長の挨拶に続いて議事。（イ）会務報告

（ロ）決算（ハ）予算の承認
（ニ）新校内幹事の承認（前任 杉倉 浩 69回転任に伴い後任に山田 栄 69回を承認）

その後本年は松井道夫 31回氏のユニークな発声による乾杯で恒例の懇親会に入りました。

来賓挨拶をいただき、余興・歓談へと移って行きました。ところで皆さんはお気づきになりましたか。今年から、正面壁面に、旧制新潟中学の校章と新制高校の校章が並べて染め抜かれた旗が掲げられました。先般の幹事会の席で、大先輩の学年幹事のかたがたから、同窓会の会をするときに、シンボルとなる旗がほしいね、という提案があり、早速正副会長幹事長協議のうえ、製作に取り掛かった見えました。



平成八年度 東京青山同窓会総会 75回 佐藤 邦雄 事務局長

東京青山同窓会総会は、十一月十五日午後六時より、東京丸



平成8年度 東京青山同窓会総会

の内サンケイホールにて開会。今回は、82回の三澤 薫さんに司会をお願いし、会長の44回斎藤伸雄氏の挨拶に続き、名誉会長36回斎藤英四郎氏から、アメリカの自由の女神はフランスがフランス独立記念百周年を記念して「自由」をテーマに贈られたこと、独立二百周年は、日本の淡路島に「コミュニケーショ

ン」をテーマに記念碑が贈られたことなど、だれもが知っているように知らないお話をさせていただきます。幹事長64回坂井俊一氏の会務報告、会計幹事53回岩原 昭氏の会計報告へと会は進行。懇親会に入り、新潟からのご来賓上村光司青山同窓会会長、佐藤義雄新潟高校校長よ

りのご挨拶。その後、旧制中学校歌、新制高校校歌斉唱と続き、いよいよ幹事苦心のアトラクション、「ビープロス」という漫才コンビが登場。彼らは、BSNでレギュラー出演したこともある人気上昇中のコンビです。新潟弁も結構うまく、久しぶりに懐かしく思われた方もおられたと思います。しかしそのコンビを食ってしまったのが我が東京青山同窓会学年幹事82回西山活子氏でした。種目はジャンケンゲーム。隣同士が百円玉を手に持ち、ジャンケンをして勝った方が負けの方から百円玉をもらい、負けの方はそこで脱落。勝った人は勝った人同士で次の二百円をジャンケンで争うというものでした。西山氏の司会の面白さとゲームの楽しさがいま一つ何と盛り上がったことか。新潟からの関根彰圓元新潟高校ラグビー部監督がさすがの勝負強さで最後の勝利を収めました。時間もなく過ぎ、最後は恒例の応援歌で締めくくりでした。46回富所強哉氏の歌声響く中、三々五々と家路につきました。例年十一月に総会を開催しております。ただ会費を納めるだけではなく、参加してコミュニケーションを計って見てください。新潟の皆さんもぜひご参加ください。

衆議院議員に

60回 吉田六ざえもん氏

十月二十日に行われた第四十
一回衆議院議員選挙において、
60回吉田六ざえもん氏は新潟県
第一区より自民党公認候補とし
て立候補、見事当選を果たされ
ました。おめでとうございます。

年頭のごあいさつ

元気だせ新潟

衆議院議員

66回 吉田六ざえもん



青山同窓会のみなさま新年の
ご挨拶を申し上げます。今年こ
そは何か良くなってきたなど実
感の湧く年にしようと、決意も
新たに飛びまわる覚悟でありま
す。みなさま方にとっても健康
で輝かしい年となりますようご
祈念申し上げます。

年頭のごあいさつ

新潟市長 61回 長谷川義明



青山同窓生の皆さん、明けま
しておめでとうございます。
この一年が、皆さんご家族
にとってお慶びの多い年となり

挙区比例代表区並立制に変わっ
た初めての選挙で、小選挙区
第一区では一人しか当選できな
い熾烈な選挙戦でした。

国会の赤じゅうたんを目指し
て、何年もの風雪にもめげず、頑
張ってこられた吉田さんは、本
当にうれしそうな笑顔で、開票

て新校舎着工の年であり、来年
の完成へむけて期待に胸のふく
らむ新たな年であります。有望
なる後輩たちが続々と誕生する
ことを願って私もまた、お役に
立つことがあれば尽力させてい
ただきたいと思っております。

昨年、みなさま方のお陰を
もちまして私に念願でありまし
た国政への仕事を与えていただ
くことが出来ました。重ねて御
礼を申し上げますと共に、与えら
れた使命の重大さを真摯に受け

ともに、同窓生の一人として大
いなる誇りを感じているところ
でございます。

私も縁あって、ふるさと新潟
の市長を務めさせていただいて
おりますが、新潟市もご承知の
ように、昨年、全国十二都市の
一つとして「中核市」に指定さ
れました。このことは、これま
で多くの先人達や市民の皆様が
新潟の発展を願い、積み重ねて
こられた努力の賜物と思ってい

の日のテレビインタビューに答
えておられました。今後、日本
のためにはもちろん、郷土新潟
のためにも、母校青山のために
も、一層のお働きを期待します。

ごあいさつの原稿をいただき
にあがった編集子に、吉田さん
は「青山同窓の支えが、本当に

とめ勉強でご期待に応えるべ
く突進いたしますので、どうぞ
今後ともご指導賜りますよう宜
しくお願い申し上げます。

さて、昨年十一月七日の衆議
院初登院以来、私にとってはアッ
と言う間の二ヶ月でありました。

ご支持下さいましたみなさまに
ご挨拶も済ませないまま、毎朝
七時三十分の朝食会に始まって
カレライスが定番の昼食をは
さんだ勉強会が午後四時三分
まで続き、所属する大蔵、通信、

災害対策の三つの委員会に追わ
れる毎日、とても充実した日々
を送らせていただいております。

折りしも我が新潟空港が拠点
空港として認められ、念願の三
千メートル化へ向け大きく前進
した現場にも立ち合うことも出
来ました。また、渦中のNTT

分割民営化へ向けた作業も所属
する会の仕事であり、大蔵委な
どはまさに当面する行財政改革
そのものの中枢にいきなり放り
込まれたわけですから当然の事

社会の進展といった時代背景の
中で、これからの新潟には福祉
文化、環境に係る施設がとりわ
け大切であると考えています。

福祉につきましても、これまで
も在宅介護支援のためのヘルパー
制度などに、新潟独特の先進的
なシステムを取り入れてきまし
たが、これからは特に保護・医
療との連携がとれた総合的なサ
ビスを提供できる体制づくり、
いかなれば国の縦割り制度を地

でありますが、勉強しても勉強
してもいくらでも学ばねばなら
ない事ばかりであります。「元
気だせ新潟、この新潟が好きだ
から」と申し上げて今にあるわ
けでありますから、この身をシャ
ープに磨きあげて新潟のお役に立
ちたいと張り切っております。

我が新潟においては、拠点都
市としての様々な機能整備に加
えて、他都市よりいち早く訪れ
る高齢化社会への対応など、当
面の課題が待ったなしの状況で
あります。それらの事業を推進
するにあたって、政策に対する
理解や調整をするのは人の力で
あり、心であります。「輝かし

い新潟の二十一世紀」へ向けて
青山の学び舎で培った精神を糧
として、みなさま方も共に邁進
しようではありませんか。

方で総合化していくという仕組
みを構築していくことが重要な
課題であると考えています。

地方の文化は、そこに暮らす
人々の心に根ざしています。地
域における様々な活動の中から、
新潟らしい個性豊かな文化が生
まれ、育っていく、そして一人
ひとりが豊かな思いを抱きなが
ら暮らしていける、まだまだ時
間がかかるかもしれませんが、
そうしたことが、新潟に住むこ



一九九六年(平成八年)秋の叙勲で、新大名誉教授の伊狩章さん(46回卒)が勲二等瑞宝章を受章されました。おめでとうございます。ご本人の喜びの声を新潟日報紙上より転載します。

秋の叙勲で

勲二等瑞宝章

46回 伊狩 章さん

昨年、新潟市は自然と人間との共生などを柱とした、環境基本条例を制定いたしました。環境問題は地球規模で拡がる問

との誇りにつながると思っております。サッカーの二〇〇二年ワールドカップの国内開催地に新潟が選ばれました。これはスポーツの振興のみならず広く世界との文化交流の場であり、このビッグイベントが、新潟を世界に向けて発信する大きな機会となり、私たちに有形、無形の貴重な財産をもたらしてくれるものと確信しています。

青山同窓会のご発展と同窓生の皆様のご多幸をお祈りして新年のごあいさつといたします。

題であり、また私たちの暮らしに密着した問題でもあります。次の世代に環境に優しいまちを引き継いでいきたい、そんな思いでさらに努力を続けてまいりたいと考えています。

八一励みに初志貫く

「健康で無事に生きて来なければ受章できなかった。自分を支えてくれた家族に、後輩に、そして神様に感謝の気持ちで一杯です」と近代国文学者は笑顔を見せる。

専門は江戸戯作文学の流れをくむ尾崎紅葉らの「硯友社」とその反面教師として生まれた島崎藤村らの自然主義文学。昭和五十年からは県内の郷土文学研

究にも取り組んできた。

恩人の一人に会津八一を挙げた。「戦時中、文学青年だった私は生活に困り方向転換しようかと悩んでいました。そこで当時疎開していた文学界の大先輩、会津八一に相談したんです。すると『真の名人になるには三十

日報文化賞に

60回 高橋栄明氏

年かかる。初志貫徹しろ」との言葉。目の前がバツと明るくなりました。「あのときの八一の言葉がなければ今頃は別の道を歩んでいた」と感慨深そうに、もう一度受章の喜びをかみしめた。

新潟県の進展と県民文化の向上に大きな業績をあげた個人と団体を表彰する「第四十九回新潟日報文化賞」の科学部門で、新潟大学医学部教授 高橋栄明氏(60回卒)が「代謝性骨疾患骨粗しょう症に関する研究」で受賞され、十一月三日文化の日

個人としてより研究分野全体への貢献と「新潟は各分野で骨に興味をもつ研究者の層が厚く、その支えが背景にあったのも幸運だった」と続ける。

新潟日報社において表彰されました。おめでとうございます。同氏の快挙に対して60回の有志によるお祝いの会が年明けに行われるそうです。

骨の細胞が古くなり入れ替わる代謝のバランスが、他臓器の疾患などで崩れて起こる骨疾患がライフワーク。特に近年注目される、骨の密度などが減って骨折などの障害を引き起こす「骨粗しょう症」の研究に力を注ぐ。骨折患者の調査とともに、生活環境や遺伝との因果関係を探り、治療法を研究。併せて起こる脊椎(せきつい)などの骨

「業績紹介」

新潟日報より転載

「骨」の研究一筋。昭和三十三年に新大医学部を卒業し、米國留学で恩師と出会ったことがきっかけだ。「メンバーが一九となった



折の手術法も研究し、骨折による寝たきり患者を減少させた。その一方、骨の形や性質、量などを測る骨形態計測学を發展させ、形態学的な診断法を確立し、専門学会を組織。関係各料の専門家を集め、全国で使われる診断基準の確立にも貢献した。

今後の課題を「スクリーニングシステムなど予防法の確立、健康スポーツの普及、骨を増やして維持する研究の發展、治療法の指針づくり、骨折に対して骨の強度を外科的に増す方法の研究」と立て続けに挙げ、特に骨を強くする運動と食事の重要性を強調する。

個人の骨の量は成長期に蓄積されて決まる。「二十歳ごろまでいかに骨を増やし強くしておくかが大事。ダイエットなんてとんでもない」と警告する。

記念募金状況は十月末で、達成率八十九%。通史、資料、回顧録からなる五十年史の予約状況は予定六百部に対して、達成率四十一%です。なお記念式典、祝賀会などの日程については三月には正式決定の予定です。

新潟高校 通信制同窓会 五十周年 準備進む

一九九八年(平成十年)に創立五十周年を迎える通信制同窓会では、第一回卒業の田中栄一氏を委員長に記念事業実行委員会が組織され、事務局(庶務、企画、募金、会計)、行事部(記念式典、祝賀会)、事業部(記念誌、記念品、に分かれ準備が進められています。

青山同窓会収支決算書・収支予算書

収入の部		平成7年度決算額	平成8年度予算額
繰越金	2,317,334	3,626,000	
入会金	1,188,800	1,052,000	
会費	5,041,900	3,500,000	
雑収入	5,609	5,000	
合計	8,553,643	8,183,000	
支出の部		平成7年度決算額	平成8年度予算額
人件費	1,297,280	1,250,000	
通信費	1,102,179	1,300,000	
印刷費	188,531	300,000	
慶弔費	88,830	150,000	
会報印刷費	471,740	700,000	
会議費	1,016,907	1,300,000	
卒業生記念品代	224,400	250,000	
補助費	300,000	800,000	
退職積立金	100,000	100,000	
諸費	96,847	200,000	
予備費	40,003	1,833,000	
合計	4,926,717	8,183,000	

次年度繰越金 3,626,926円
平成8年5月8日
上記の通り相違ないことを確認致します。

恩師 菅原・沢山先生逝く

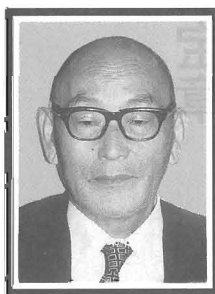
55回 早福 卓

創立五十周年記念の年に入学し、一年生時代の主任が菅原先生、二年生の主任が沢山先生で、菅原憲雄先生からは国文と漢文を沢山先生には数学を教えて戴きました。

小学生にとつて先生の存在は教師と言っても全科目を担当しますので、朝から午後まで接している事もあり多少の甘えのある親しみの関係はあったと思います。新潟中学へ進学したら先生との間には距離がありました。

入学早々菅原先生からは「今日から君達を大人として扱う。小学校時代の甘えは捨てるように。」という意味の訓示を受けました。授業の面では、予習は「ノメン」を頼るより「大辞典」でやるよう指導されました。字画や旁・偏で辞典を引く努力も記憶力を培う要素だと教えられました。一学期の終了式の前日、昼休みの時間に教室待機を命ぜられ、これから名前を呼ばれた者は逐次教務室に来るようにと、先ず最初の一人を連れていかれました。十五分経つと帰って来た生徒が、次の者の氏名を伝えまます。結論は「赤座布団」のある生徒を激励の為呼んだので

した。私も次は俺かなと心臓をドキドキさせながら首を縮めて待機していた事を思い出します。漢文の時間では、御機嫌が上々の時、塩屋温先生直伝の漢詩の朗吟を聴かせて戴きました。藤田東湖の「正気の歌」「前赤壁の賦」などなどでした。藤田東湖の漢詩は超倫寺に屏風としてある筈ですし、この詩を暗記するよう勧められました。お寺の住職で一才怖い面も持ち合わせ



菅原憲雄 先生

ておられました。いろいろな面で少年期の一・二年生時代強い影響を与えて戴いた点、応に「恩師」です。導師代表関根彰圓師らの心のこもる説経に導かれ大往生した菅原天神先生。ご薫陶を忘れずに精進します。

沢山先生は、関屋小に一年位在任して私の一学年下の組を担当した事もあって、当初から懐かしさも加わった親しみ易い先生でした。数学の教師としては歌川京造先生、藤田佐市先生も



沢山 巖 先生

教え方の巧さは定評がありましたが、沢山先生の生徒と一緒に考えながら答えに導く指導振りには又変わった味がありました。二期の秋、連隊区司令部や警察らの査察?の下に、一年生から五年生全員参加の防空演習がありました。私達下級生はテ

ルテル坊主の大きい赤い色の模擬焼夷弾を投げられて、お前とお前式に、バケツ先生に指を差されて十人位負傷者にされて上級者の担架に乗せられました。お役目御免になった二年生は教室に引き揚げました。上級生は尚も校庭で更に訓練が続いていました。四時限目の時間になっても、何の指示連絡もない仮でしたので誰言うもなく「弁当でも喰べるか」と言う空気になって、大方の生徒(喰べない真面目な者もいたが)が弁当を取り出して喰べ始めました。その時

五年生の週番が巡回にやって来たのです。訓練が終わわり偉い人の講評があり、部外者が引き上げた後、教頭の土佐ブル先生がゲートルを捲いたままの二年生を国旗掲揚塔のグラウンドに「正

座」をさせ長々と説教を始めたのです。一分も経つか経たぬかのうちに足がシビれて、説教の中味なんかは頭の上を通過。解散して教室に戻った後各クラスとも主任から重ねての説教。我がクラスの主任の沢山先生。

「お前達、他人の弁当喰ったわけでもないのに、教頭先生に叱られてバカくさいと思うだろう、今度から気をつけてやれや」でお開き。落谷ボテ先生の組は机の上に弁当のフタをとり並べさせられ、一人一人を点検。頭を叩かれた上、全員長時間説教された。同じ青山の同窓なのにマルクス・ボーイの落谷ボテ先生と沢山ダンゴ先生では後輩の指導で雲泥の差。沢山先生は定年まで母校に在職し、青山同窓会の校内幹事として活躍され、母校の焼失と再建の為鍵富会長を

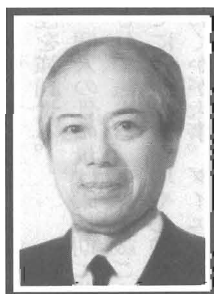
扶けて母校の為尽くされました。私が同窓会の役員に引つ張り出されたのも沢山先生の命令。今のように電話の無い時代で、家が学校に近いので連絡がとり易かった為だと思います。母校復興基金の募金運動、同窓会館建設の発想、同窓会会員名簿の完成等々永い永い交遊の日々を偲び、青山同窓会活動にも殉じた功績を讃えつつ、二人の恩師を悼みながら擱筆致します。

往時を顧みれば、強烈な個性を持ち、かつ人間味豊かな教師集団の中であって、先生は一旦異彩を放っておられました。終生こよなく愛した寮歌を口ずさみつつ、悠然と闊歩する姿は、今も心に焼き付いています。

追悼 斎藤三郎先生

75回 玉木 正一

在学中三年間、75歳生の担任の一人でした。『さぶさん』こと、斎藤先生が、平成八年三月十五日、療養先の国立西新潟病院にて亡くなられました。行年八十一歳、平成三年七月の入院以来、途中の気管切開手術のため人工呼吸器を離せず、筆談を余儀なくされた長い闘病生活でした。



斎藤三郎 先生

さらに、酒を抜きに先生を語れないでしょう。卒業後、組、学年を超えて、多くの学生が、ご家族の迷惑を知りつつも、磁石に吸い寄せられるように先生宅に集まり、杯を重ねつつ「青春」を語り合い深夜に及ぶことも多々ありました。高歌放吟、落花狼藉の日々が、先生の我々を包み込んでくれた大きな愛情と共に懐かしく思い出されてきます。

ここに、病中の一句「青春や 杳かなるもの雪止」(散浪子 先生の号)を載せ、先生を偲ぶよすがとさせていただきます。青春の夢を追い続け、純真さを汚すことなく自由人として飄々と生きた「三郎さん」、安らかに眠りください。

「救われざる者を救う」ことであると固く信じておられました。豪放磊落の反面、こまやかな思いやりを忘れることはありませんでした。「合格すれば自分の実力。失敗したら天を恨め。春秋に富むのだから、志を高く持ち、捲土重来を期せ。後は知らん」先生、古き良き時代でしたね。

〈寄稿〉 青山同窓会校歌に思う

50 回 瀬谷 誠

百周年記念に講演を後輩にされた斎藤英四郎名誉会長が、東京青山同窓会の席でいつかこう呟かれたのを偶々傍に居て聞き、一瞬驚き且つ同感したことを私は今でもよく覚えてる。

「青山同窓会の校歌は何と云っても、玲瓏の天あふぐ時 胸颯爽の意気に充ち、だよねえ君ッ!」

「百里流れて信濃川」何となく女性的だな。すべからく我等青陵健児は質実剛健でなくっちゃあ!

東京青山同窓会ではいつも二つの校歌が唄われる。因みにどちらの校歌も作曲は大和田愛羅氏で作詞が相馬御風と堀口大学の両大家で異なるだけ。然し自分が属した時代と校風は親しみと誇りと胸に響くものがあった。他を寄せ付けないのである。

私も含め高齢化の進む新中先輩諸氏は、「玲瓏の天」と言い、男女共学の若き梶高(ケンタカ)の諸兄姉は、「百里流れて」と唄っている。その溝は決して埋まらない。益々深くなる気がする。何も深刻に考える程の事ではない。たかが校歌である。され

ど校歌であつて二つの校歌を併唱しないと新中(けんちゅう)と梶高(けんたか)は結びつかないのである。

敗戦を契機に日本の社会は大きく変化し、教育制度が変わり、日本的伝統史観が国際的自由個性尊重価値観にとつて変わられた云々、などという話ではないのでこの話はこれで話題を転ずる。

新中に青陵文庫という図書部委員によるクラブ活動があった。元新潟市長の川上喜八郎氏は45回卒で、その委員が相集い第一回の青陵文庫の会というミニ同窓会を持たれた。不幸にして市長が他界されこの会が中断。同期の福田賢弥氏が浜田敏衛(46) 剣持栄一(47)の両氏に呼び掛け、二回三回が東京と新潟で交替で催され復活した。新大名誉

教授渋谷武、松の山町長村山政光、新潟地裁渡辺洋の三氏は小生と同じ新中の50回卒の文庫委員。いつも十五乃至二十五名の出席者があり、今年十月第四回の席上、里見義忠(43)君島日出雄(44)の両先輩から青陵文庫の会の活性化の為に、これを

新中から梶高につないで若返りさせようとのご提案があった。さてここに新潟高校図書館報五十三号(平成四・十二・二十四)創立百周年特集第一部図書館百年の歩みという記録がある。全文は省略。これによると、『図書館の設立時期ははっきりとは分からないが学校の創立とはほぼ同時期であろう。当時は生徒寄宿舎の二階の談話室に間借りという形であつたようである。その後大正期に渡辺校長により「大正文庫」が設立。大正十一年落成したばかりの新校舎本館に移り昭和四年昭和天皇御即位の大典事業として「青陵文庫」が発足。当初百五十冊程度であつた蔵書も次第に増加し昭和十六年には三千余冊になった。昭和十八年には学徒動員の煽りを受け「青陵文庫閉鎖」。昭和二十年敗戦。戦時中の疎開や占領軍の指令などで蔵書の大部分が消失。蔵書は五百冊程に減少。当時の儀校長はこの状況を歎き図書館の復興を決意、資金集めに奔走。昭和廿三年開館に漕ぎつけ昭和廿七年には一万冊。昭和廿九年学校火災。蔵書は灰塵。儀校長は後に「フェニックス」にならねばならないという言葉を残されたところがあるが、悪条件下苦難。六年遂に昭和卅五年新図書館を完成。今日に至る」と記

されてる。さて母校もいよいよ現在地に於いて全面改築が決まり、その総合校舎が平成十三年度に完成と聞く。そこで図書館はどんなものが出来るのであろうか。歴史の流れの中にこれを見る想いで感慨深いものがある。玲瓏の天”を唄う仲間が今年又一人減つた。彫刻家の高橋清兄(50)である。新潟市庁舎に永遠のモニュメントを遺して。同窓会の皆勤者だった。村山政光兄(50)は今秋叙勲の栄を得られ町長を辞し大棟美術館々長となられた。そして私は財政大赤字の国の基金にぶらさがる年金生活者。音痴で「百里流れて」が未だよく唄えないでいる。

〈寄稿〉 “映画と安吾と新潟”

76 回 斎藤 正行

「安吾の会」世話人代表

坂口安吾は、大正八年(一九一九)新潟県立新潟中学校に入学、大正十年三年に進級できず、翌大正十一年に三年に進級しましたが八月三十一日付で退学しました。二年生を二度在籍して居たことになりま。

私は、東新中学から昭和四十年、新潟高校に入学しました。坂口安吾の存在を知ったのは、その頃です。正面玄関直ぐの二階の図書室でした。高校に馴染めず、だからと言って、登校拒否もできず、学校には通いましたが、授業をサポートは、図書室に隠れていました。そこで私は、「風博士」と「吹雪物語」という作品に出会いました。活

である。新潟市庁舎に永遠のモニュメントを遺して。同窓会の皆勤者だった。村山政光兄(50)は今秋叙勲の栄を得られ町長を辞し大棟美術館々長となられた。そして私は財政大赤字の国の基金にぶらさがる年金生活者。音痴で「百里流れて」が未だよく唄えないでいる。

シネ・ウィンド」でした。それも十年が過ぎ十二年目になります。「安吾の会」も十年が過ぎました。「安吾の会」では、昨年十月二十日坂口安吾生誕九十周年を迎え、命日の二月十七日に合わせて『探索ノート、生誕九十周年記念誌』を発行する予定です。全国から四十篇程の原稿が集まりました。また、新潟市では平成六年より安吾の資料収集に力を入れ、「白痴」「オモチャ箱」の直筆生原稿を完全な型で所蔵して居ります。それは、全国的に高く評価されています。そのこともあつてか、手塚眞(手塚治虫の長男)が、五年前前から尋ねて来、坂口安吾原作「白痴」を、新潟で、映画化をしたいとのこと。ついに今年からスタートします。映画と安吾と新潟。こんなに嬉しいことはない。映画業界も大変な混乱期を迎えています。が、本格的な映画(予算七億円)を新潟で、新潟の人達と創りたいという手塚眞は新しい作家です。彼を新潟が呼びよせた訳です。新潟の力を持ち寄って世界に恥じない、安吾を越えるものが、出来ればと思っています。新潟高校に入った時からこの事は決まっていたような気がイマはします。

特集 同期会だより

二十一世紀に 握手を期して

青山三九会

39回 池田 藤三

青山三九会同期の面々も八十才を越えて、会長、幹事諸氏が次々と体調を崩し、二年近く総会も休止止むない事態となったが、再復活の声があがり四月以来仮幹事を指名して世話人会を結成した。

数回に亘り参集して、会員名簿の再整理や総会実施に関する各人の意向調査など、具体的な再興計画を推進した。

調査の結果、昭和三年の、旧制中学校入学時の二百五十名が、回答者四十二名、未回答者十六名で、回答者の四十パーセントが、病気になるいは体調不調で集会等に出席不能との数字には感慨無量のものであった。

結局、平成八年は北魚沼郡大湯温泉ニュー湯元に十月二日、日帰り総会と決定してご案内を発送した。

出席申し込み者十五〜六名が十二名となり、定刻どおり十四時に発会された。総会では新幹事、池田藤三、涌井十一郎、高橋新一の三氏が選任され、任期二九年として会務の運営に当た

る事となり、毎年春乃至秋に総会を開催することに決定して懇親会に移った。

久々の集まりとてお互いの近況や誰彼の情報や青春の思い出に熱い花が咲いて、あまり飲めなくなった酒によい気分になっていると、天の一角から教練のシャモ先生の号令一声あり「第一目標、二十一世紀、前へ進め！」そこで一同「ソオセバ皆ソナニ十一世紀マデ後四年ダスケ頑張ッテマタ会オウテバネ」と熱い握手を交わして無事散会となった。

四十二期生大会

42回 高山雄次郎

平成八年度の大会は東京と新潟の中間地点である越後湯沢駅へ集結と決めました。

新中を巣立ったのが昭和十年春、あれから六十二年いろいろありましたが、それぞれが青春を祖国に捧げて第二次大戦を体験し、波瀾万丈死線を越えて粘り強く生き残り、更に敗戦の虚脱の中から壁を打ち破って来た者達ばかりです。平均年齢も既に越えて八十歳に片足を突っ込んでおりますが、東京方面より六人、新潟より八人計十四人が十月二十八日十二時三十五分に集まりました。



写真は向かって左から池田藤三、五十嵐健治、渡辺俊男、高橋新一、野沢正一、大塚信一、森上輝雄、佐藤裕雄、森上夫人、岡崎清彦、田中正一、山下八郎の十二名。

卒業六十周年 記念全国大会

43回 本田 禮一

夜の会食は綺麗どころを四人も加え、飲みかつ食し談論風発ニキビ時代に還り旧交を温め、時間を忘れて楽しみ、翌二十九日は朝食後、今泉博物館及び雲洞庵を拝観して、昼食会でまたまた大いに盛り上がり、十四時過ぎの新幹線に来年満八十才の再開を約して別れました。

42期の会合は既に約三十回に及び、これも今は亡き中野、福田、そして病で再起不能となつた菊地氏等多数協力のお陰でした。しかしなんととも齢には勝てず、年々減少の途をたどることは誠に寂しきことです。



出席者(東京より)小泉俊平、片山彦三、岡田龍雄、鳥羽正隆、小笠原一男、田中正吾(新潟より)今泉景喜、今井包和、薄田開元、小武内祐治、大野總一郎、高山雄次郎、羽田軍次、広沢 齊

昭和十一年卒業後六十周年を迎えた平成八年、二つの記念行事を実施した。

① 全国の同期生から原稿を募り青山時代の思い出と近況をテーマに「六十年の回顧」と題する冊子を発行する。これは遺稿を含め五十四名から七十四通が集まり十月初完成。(同窓会へ一部寄贈)

② 十月十七・八の両日岩室高島屋旅館で一泊の全国同期生大会を開催。大会両日とも晴天で遠くは八丈島の徳重君、六十年振りの邂逅となる福井からの本山君等々で懐かしさも一入。夫人同伴も二組あり大会に彩を添えた。新潟中学入学時二百四十六名、卒業時(四年終了進学者を含め)二百十三名が、本年八月現在九十五名となったが、当日出席者は二十四名と両夫人。宿に着くと出来上がったばかりの「六十年の回顧」を配る。出席者の中には大病を克服して元気になった友も多く、代表挨拶の後、岩室甚句の芸者の手踊りなどあって和やかに、先生や旧友の思い出話で話が弾む。宴の終わりに校歌・應援歌・激

勸歌を合唱すれば青春の血が甦り、一同の頬も紅潮する。翌日は越後一の宮弥彦神社に揃って昇殿参拝し、旧友との出会いを感謝し今後の安寧を祈願



して玉串を捧げた。巻の地ビールで喉を潤すと、偶々チェコ民謡楽団の演奏に出逢い、思いがけなく二重の楽しみを味わう。最後は新潟に戻り砂山もグミ原も消えてしまった寄居浜を眺めながら昼食を摂り、「二十一世紀にまた元気で一緒に酒を呑もう」の合言葉で参会者一同顔を輝かせつつ笑顔で大会を終了した。(写真は弥彦神社前)

「心の若さ」

平成八年48期会報告

48回 小林 亥一

快い秋冷を覚えながら開会を待つ「青陵健児」の間には、白けた雰囲気など微塵も無く、各自いささか興奮気味に談笑していた。その様子には、すでに会が始まっている感があった。次つぎに懐かしい顔が現れる。今宵の会は、おのがじ日ごろのあれやこれやを忘れ去って、自から少年の日に還っているのである。

会場「かき正」の大広間正面には、我々の大先輩・秋艸道人が大書した横額が掲げられてある。その「施無畏」は、思いやりの深さをいったものであろうが、今夕相集う48期の後輩にとつてまことに感銘深い。

本日の司会は諏訪宏君、彼はよく透る声で開会を若干遅らせることを知らせたが、六時半を過ぎて各自席に着いた。

開会は例によって五十風皓太君によって宣せられたが、それもいつもながらの重厚な語調で簡潔明快。

次に幹事長・大橋明自君の挨拶と諸報告が述べられた。幹事の骨折りによる諸コピー（物故者名簿、不参加者の連絡短信そ

の他）が配られたが、大橋君はそれらについて種々説明し、サムエル・ウルマンの詩「青春は、心の若さである」を朗読した。

続いて他界された諸友の追福を祈る黙禱に移る。ここ一兩年相次いで亡くなられた友への悲しみが深いところへ、連絡短信を寄せた川嶋由郎君が二十日程前に他界されたこともあって、一同感慨ひとしおであった。



大谷一男君は、詳細な会計報告を行い、提案を出したが、皆拍手で応じた。

乾杯となる。仙台からバスで直行した山口素夫君に首領を取ってもらおう。これから一座は華やぐ賑わいとなるのだが、山口愛正君は、清野清君が亡くなられる経過を詳述。このような集いでなければ、新潟地区に住む同

期生でも、滅多に会えない人も多いこととて、あちらこちらで弾んだ談笑が続く。静かに酒を酌み交わす友、席を移して久闊を叙する人、酔う程に高声に論じ合う楽しげなグループ、予後を押して参会した水戸正郎君を囲む友垣、一座靄々として宴はたけなわ。諏訪君は、スケジュールの「三十秒コメント」（久しぶりの出席者のコメント）を進めようと、もとの席に戻るように伝えたが、容易には揃わないほど、盛り上がっていた。横浜からの本間五夫君、高木義雄君、小林などから近況が話された。

秋の夜長とはいっても、楽しい時は早く過ぎてゆき、恒例の校歌「玲瓏の天」を二番まで朗唱し、応援歌は「霞たなびく」「青山、青山」「強者等」などを高唱した。周辺の料亭の客たちは、突如として鳴り響く歌声に驚いたことだろうが、この歌声が同期の会を意気軒昂たらしめるのである。

名残は尽きなかったが、夜も更けてしまったので、南緑八郎君に締めてもらうことになった。南君は、四十八期会の意義を讀え、諸兄の健康を念じて万歳三唱を提示した。一同高らかに唱和して、会は閉じられた。

配られた物故者名簿と不参加者連絡短信を見ると、誠に感慨

無量である。物故された諸友は実に百一名に上がっている。また、短信を寄せられた三十五名の方々と、何らかの点で体調思わしくない諸兄は十七人。遠出や会合は無理な方々もあろうが、年一度、少年の日に還るのも意義深い事ではなからうか。

吉弘芳郎君の短信に、サムエル・ウルマンの詩に讃意を表してあったが、正に「青春とは、心の若さ」であろう。この機に、我が新潟が生んだ江戸期最高の詩人・館柳湾の詩句を書いておきたい。「偶成」と題する五言律詩の終わりの二行である。

行一年 逾（ユルモ）七十一 書
猶（ユル）欲（ス） 買（ハ）ハント新（ニ）書（ブ）

59期は、今年で丁度四十五周年の節目の年にあたることから初秋の九月十四日、一昨年好評を得た越後湯沢温泉で同期会を開催しました。

第59期 四十五周年同期会

恩師、田辺啓三先生、東京在住の佐野元先生のご臨席をたまり、東京地区五名を含め総勢三十一名が馳せ参りました。青山の松をかたどる59期名入りの臙脂の校旗のもと、圓城英二君の開会の辞、関根彰圓君の

挨拶に始まり、惜しくも逝去された恩師並びに級友への黙禱、両先生の御言葉と同期会次第のつと、梅沢貞雄君の乾杯の首領で懇親会が始まりました。

ことに、伊佐幹事からの報告では、同窓会事務局から拝借した二枚の新社舎の完成図の紹介、名譽ある紫綬褒賞を受賞した小池和男君、および永年のアマチュ



ハワイで見た
赤い魚

60回 佐々木 城

平成八年七月十一日、新潟空港新ターミナルビル運用開始記念フライトで、60回生の有志たちが一路ハワイを目指しました。同日、東京に住む有志も成田を離陸。家族を含めて二十数名のツアー参加者がホノルル在住の60回生、水野哲雄君を訪ねての交歓旅行の始まりです。

アスポーツ振興に努め、新潟県体育協会、体育功労賞を受賞した飯塚実君、関根彰圓君への賛辞で大いに宴席も盛り上がり盃もすすみました。旧制中学から新制中学、新制高校へと激動の六年間をすごした感慨にふけり延々三時間、夜も更け、名残りはつきないが校歌に始まり、応援歌で幕を閉じました。

翌朝、再び一堂に会し、盃を酌交わし、お互いのさらなる健康とますますの発展を祈念するとともに、再会を約し、三三五五帰路につきましました。（市川記）

水野夫妻に迎えられた一行は、ホノルル全市街を見下ろす丘にのぼったあと、観光コースを少し離れた生鮮市場に足を向けました。実はハワイの漁獲物のなかに食べ方のわからない魚があるとの水野夫人の話から、学生時代に魚類学をかじった私が鑑定人に雇われたのです。

60回生有志による海外旅行は二十一年に近い歴史がありますが、既製のツアーとひと味違う試みを、毎回どこかに盛り込むことにしています。たとえば数次にわたる中国大陸紀行では、団長先生こと渡辺秀英先生と各地を歴訪し、生きた漢学研究の野外講義を拝聴していますし、台湾在住の同期生向井和夫君を十八年前に訪ねたときは、彼の誕生日を全員で祝いながら、中国流

ターや、潜水艦の海底散歩など
思い思いに体験し、ハワイ再訪



の招待状のマナーを学びました。
今回のハワイ旅行も、そんな
わけで、まずは魚屋の店先へ。
氷の上には新鮮なマグロ、クサ
ヤモロと呼ぶアジの一種、そし
てひときわ目をひく大きな赤い
魚がのっています。ハマダイや
ヒメダイに近い魚で、日本では
料亭向きの高級魚だと説明しま
したが、二日後、現地の超一流
ホテルのレストランにこの魚の
料理があるのに気づきました。
店の日本語のメニューは観光客
を意識したせいか、ウケの良い
甘鯛の料理と呼び変えられてい
ますが、肉質は甘鯛より弾力が
あり、魚体も大型なので、機会
があつたらお試し下さい。

滞在中はポリネシア文化セン

れも同期の和田君に記念写真を
撮って貰い、一同十五階へ移動

を水野夫妻に約して七月十六日
に帰国。次回はダム建設で水没
が予想される揚子江の三峡下り
を急ぎ計画中です。60回生は全
員還暦を過ぎていますが、年齢
を重ねても自分のカラに閉じこ
もらず、日々見聞を広める努力
を今後も続けたいものです。

青山六三会 還暦記念大会

赤羽 良樹

十一月十五日、ホテルイタリ
ア軒で還暦記念特別大会が開か
れました。まず同期の大神宮、
梅坂君によりお祝いを行いまし
た。ご出席の先生方からは第一
限英語(松浪先生)第二限数学
(横山先生)第三限体育(高橋
是成先生)第四限漢文渡辺秀英
先生第五限保健小黒先生と懐か
しい授業スタイルでスピーチを
いただきました。松浪先生は
「カタカナ英語は典者!!」と題
して四題計三十七問のテキスト
を態々作ってきて下さいました。
また渡辺先生は色紙を五枚ご持
参下さいました。丁度五卓とし
たから、一卓一枚ずつ配り、そ
れぞれジャンケンとか、一番遠
方からきた人等で決めて幸運を
手にした人は大喜びでした。こ

た。同日の昼のゴルフ大会が、台
風の影響で中止となるハブニン
グがあつたが、六時半からの大
会、懇親会は、恩師八名のご参
加を得て盛大に行われた。

標記大会が、平成八年八月十
五日イタリア軒で開催された。
同日の昼のゴルフ大会が、台
風の影響で中止となるハブニン
グがあつたが、六時半からの大
会、懇親会は、恩師八名のご参
加を得て盛大に行われた。
小田島寿一実行委員長の挨拶
の後、渡辺秀英先生から相馬御
風、会津八一の四十年の交際
にさぞえ、この日のために自作
された左の句をご披露いただい



し、同窓の青木正巳さんのピア
ノ演奏を楽しみました。次回は
また大勢で集まりました。

六十四期 卒業四十周年

64回風間 士郎



なお、欠席者からのも含め母
校への金一封の寄付を行った。

六十四回生の記念祝賀に
学び舎を出でて よそぢの教
え子が栄ゆる姿 見るが嬉
しき
これに対し、関西から出席の
佐藤幸治京大法学部教授から恩
師に対する謝辞があり、東京か
ら出席の坂井俊一君から東京同
窓会の報告がなされた。
懇親会に入つて恩師及び同期
七十人は、一気に青春時代に戻
り、時間を忘れて飲み、かつ語
り合った。既に白髪が多い仲間
も、気持ちは高校時代と変わら
ない。64期生が互いに切磋琢磨
して励まし合い二十一世紀での
四十五、五十周年での再開を約
して、古町での二次会に向かっ
た。



平成八年七月十二日青山同窓
会総会に出席した69回生の二次
会(東堀7銀座ライオン)の席
で、「69回卒業三十五周年湯沢
大同期会実行委員長」の坂爪征
基君が声を枯らして叫んでいた。
「十月十一日をお忘れなく。十
月十一日。」
で、我々は従容(?)として
その期日に湯沢はグランドホテ
ルへと赴いたのであつた。これ
まで二十五周年、三十周年に湯
沢でやってきた。
ここではわが青山同窓会副会
長の教井栄一君が叫んでいた。
「会費出せや。」そして彼は必
ず残金を出す。「おお、癖だが
な。そいでいいば。」
会そのものはこれまでと同じ
で、広間での宴会が終わつて、
ホテルの一室を使つての二次会
に全員が参加するといふのも、
これまでどおり、参加者数が若
干減つて、ころなし昔の元氣
が衰えたかな、と思い始めてい
た矢先。なにが。疲れないのか
ね、この連中は。

大会を開催したこと、に言及し
ておきたい。
そういえば鈴木喜典君が宴会
の席でこの会報の原稿を「書く
書く」と叫んでいた。これから
頼んでもとても間に合わない。
大盛会の三十五周年大会であつ
たが、個人的には事後の処理に
反省が残つた。「キスケかんべ。
次回頼む。四十周年。」
青山70回
マスターズゴルフ
村田 紀夫
校舎改築のため、本来五年ご
とに開催していた同期会を、一
年早め、八年の十一月二十三日
に行い、翌日例によつて青山70
回マスターズゴルフ大会を開催
致しました。
前日は、久方ぶりの再会で、
「俺は、二時までつきあつた」
とか「わしゃ、何時だったかわ
からん」など、まことに品行方
正な一夜を過ごしたおかげで、
当日は、新潟の十一月にしては、
まったく儲けものの晴天、小春
日和であり、完全武装でゴルフ
場に乗り込んだが、プレー中暑
くなり、また汗もかきだして、
セーターなどは、さっさと脱い
でしまいました。
まあ、当日集まつた連中、御
想像通り、一様に目赤く、臉は

完全に開かずと言った具合で「免疫不全過剰性睡眠不足症候群」で打つ手なし。

しかしながら、それはそれで良くしたもので、力まず出だしのショットは、結構ともに飛んでおりました。ゴルフとは、不思議なもので、体調万全・絶好調であるからと言って、気持ちよいショット・スコアがでるわけではない様です。前半終了時、昼食で集まった際の話では、それなりのスコアで上がっておりました。気分を良くして、二日酔いの迎え酒とばかり、ビールを疲れた胃に流し込んで後半戦へ突入。優勝をねらうとばかりの意気込みで、華々しくスタートしたが、二日酔い、迎え酒及び前夜の品行方正の結果もでて来て、更に付きにも見放され、前半とは、格段の差が現れました。ゴルフとは、昼食を境に天地ほどの違いがでてくるものかと実感。

気持ち、体力ともに、まだまだだと思っておりましたが、いかに鞭撻しようとも、卒後三十五年は残酷な歳月であったかと思ひ知らされた一日でした。

プレー終了後表彰式で、次回の幹事は、優勝の志賀英雄君と斉藤忠正君に決定、またその場で「次回も決める」との斉藤会長の示唆で、来年は、六月十五日に宿り、翌十六日に開催と決定しました。

例の如く、スコアは、情報公開条令もあります、本人の名誉とプライバシー保護、また、健康で文化的な生活を送るため記載致しません。

今回やむを得ず、参加できなかった方々、次回は、万障くりあわせの上参加して下さい、お願い致します。又、今まで参加されなかった方で、ゴルフが趣味の方がおられましたら、幹事に一報を。

青山七十五回

さる八月十日、恒例の青山七十五回(75回生同期会・幹事長/福田実)の夏の例会が、新潟市東堀六・錦城閣で開催された。卒業以来二十九年間、例会を欠かした事がなく、青山同窓会の中でも結束の堅い同期会として、定評のある同会であるが、今回は同期上原誠一郎氏寄贈による地ビール第一号「越後ビール」で乾杯、約四十名が地ビール、ワインや、同じく同期の伊藤哲夫氏提供の清酒「日本海」を酌み交わしながら旧交を温めた。

また、同日、恩師瀧澤強一前校長(現明訓高校長)をゲスト

に、阿賀高原ゴルフ倶楽部を舞台に、第一回青山七十五回ゴルフコンペも繰り広げられた。福田幹事長の格段の配慮のもと、六組二十四名が参加し、猛暑の中、楽しく、有意義な一日を過ごした。ちなみに優勝者は堀一君。なおこのコンペは瀧澤杯争奪七十五回として来年以降も継続が決定している。また、暮れの十二月には忘年同期会も開催された。七十五回生の諸君、ぜひ一回ご参加願いたい。



79期生 二十五年振りの再会

79回 白井 行雄

八月十一日卒業二十五周年を記念し、初めて同期会を開催いたしました。懐かしの校舎の見

納めを兼ねて、一限は母校図書室で各担任先生方の特別授業、二限は校舎見学、放課後にはオークラホテル新潟で、渡辺雄平先生のご発声で乾杯、懇親会と相成りました。一・二限の出席者六十六名、放課後は百十六名、そして先生方全員の出席をいただき、大盛況でありました。

83回卒業 二十一年周年同期会

83回 吉水 敦

平成八年八月十一日曜日に83回生による思い出の授業と卒業二十一年周年の同期会が行われました。同日は79回生も同様の会を催していました。

を思いおこし、飲んだり食べたりますよりも、とにかくしゃべりまくって話に花を咲かせました。そのうえ、会の最後の校歌と丈夫の大合唱も相まって、翌日は声が枯れてしまった等という話も聞きました。母校への改築記念品の贈呈、五年後の二〇〇一年の三十周年同期会の開催を決議し、再会をたく約束して閉会しましたが、二次会のジョイポリス・ロックンロールダイナを皮切りに、三次会・四次会と翌日まで旧交を温め続けたのであります。

思い出の授業は、午後二時より新潟高等学校で行われ、集まった同期生は約八十人でした。松浪先生、渡辺卓先生による英語と数学の授業を受けた後は、イタリヤ軒に場所を変え午後五時から卒業二十一年周年同期会を開催しました。これには約百六十

人の同期生と各クラスの担任の先生方十人全員に参加していただき(ほぼ半数の先生方は、79回生卒業二十五周年同期会へ参加のため途中でオークラホテル新潟へ移動されました)二十一年ぶりの再会におおいに盛り上がりました。幹事としては会費、料理の予算や内容等かなり悩んだのですが、久しぶりの再会という事で会話が非常に弾み、料理はほとんど手付かずの状態です。終宴の時間となり、最後に五組の栗林君の音頭で、まずはおを大合唱し、盛り上がりも最高潮に達しそのままクラス毎に二次会、三次会へと傾れ込んでいったようです。



今回は平成八年二月より二組の富山君を中心に有志が集まり、名簿の作成、先生方や同期生への連絡、会場の予約などをやって来た訳ですが、松浪先生より「なかなか立派な名簿である」とのお褒めの言葉をいただいたことや同期生が二十一年ぶりの再会に盛り上がる様子を見て、「本当にやってよかったな」と実感させられました。

先輩・後輩のきざすな

クラブOB会特集

第十回青山 バレーボール クラブ総会報告

60回橋本行雄

平成八年十月二十六日、篠田旅館にて、総勢三十二名出席のもと開催された。常連の長谷川新潟市長に加え、はじめて京都から往年の谷名監督をお迎えし小林政弘幹事の司会で、時効になった秘話が飛び出したり、全員の新況報告などで、時の経つのも忘れ、谷先生が高令の為に休みになるとの事で、漸くの応援歌、校歌声唱となり閉会。県外からの出席者には小杉幹事長の配慮で、寒梅以下越後銘酒が贈呈され、喜ばれた。



柔道部

OB会報告

70回村田紀夫

本校より柔道部監督佐々木先生、同窓会より早福卓氏をお迎えし、さる九月二十七日(金)

信濃川会館において恒例の青山柔道部OB会総会及び懇親会が三十三名の出席のもとで開催されました。40回卒の小島松一先輩から96回の渡辺久雄君まで実に幅広く集まっていたが、例年ならば四十〜五十名の方の参加があるのですが今回は残念ながら都合のため出席できな

きなかった方が多くあり、幹事の日時の決め方に少々問題があったのではないかとと思われ、反省しております。しかしながら、この会合を楽しみにしてください。諸先輩がおられることは、幹事として大変喜んでおります。我々後輩としても自分の世界と違う世界の先輩方の話を聞くことは非常に楽しみにしているところ

です。歴史の古い柔道部ですが、OB会も最初は後援会として発足し現在に至っておりますし、旧制中学時代より続いていると聞いております。現在名簿に記載している方々だけで五百名余、新潟県内には二百名余の先輩諸公がおられます。また、東京方面も青山柔道部OB会がありまして、斎藤伸雄氏(44回)が会長をなさっております。毎年集まり、旧交を温めておられると聞いております。

新潟でOB会開催にあたって、時々来港され、東京における状況をお話し下されます。諸先輩それぞれ社会的に重要な立場におられますが時間を都合して出席されているとのこと。現在の本校柔道部に対しては、佐々木監督指導のもとで練習に日夜励んでいるとのこと、OB会としても合宿への後援、寒稽古等の終了後、部員に対して

打ち上げと称して会食を行ってあります。もちろん未成年でするので酒類は専らOBです。彼ら(最近では彼女等もおります)もいざれOB・OGとなり、現役の諸君の活躍を見守ることとなります。

なお、今回役員改選がありまして、本間日出男会長(49回)から新会長として結城俊郎氏(62回)に禅譲されました。旧制、新制一体となった会合ではあります。諸先輩ますます元気で毎年出席されることを願っております。今後もご連絡致しますのでご出席できなかった方々ぜひお集まりくださるようお願い致します。また住所変更などがございましたら、幹事までご一報ください。

一世紀にわたる 漕艇部の誇り 「部史・漕艇百年」

ボート部OB会は昭和五十二年に「青山艇友会」と称し、それ以来中学・高校のOBが一体となり会員相互の親睦と母校漕艇部の発展を願って活動しております。現役の活動情報等を盛り込んだ会報の発行、総会案内、総会報告等によるOBとの連絡。役員と顧問、高校生と昼食懇親会を行い練習の様子等の情報収

集。競技レベル向上のため、新潟南高校と定期戦を開催。必要時にはOBが協力して資金カンパを行うこともあります。

ボートの変遷(固定席からスライディングへ、フィックスからナックルへ、その後シェル化へ)もありますが、漕ぐことに変わりはありません。練習の苦しみ、思い出、遠征の成果、試合の勝ち負けそれぞれが歴史です。先輩、現役、後輩と新潟でボートを漕いだことのある仲間達が青山艇友会です。漕艇部には百年の歴史があります。中学端艇部、高校漕艇部の綿々たる歴史を一冊の本にまとめた「部史・漕艇百年」(三五二頁・平成五年完成)は誇りです。

定期総会時の懇親会では、老若男女(女性の参加があると大喜びするほど圧倒的に男性が多い)が過去のこと未来のことを大いに語り、現役の将来に夢をみます。部歌(古都蕭々の歌に泣き、それ青陵の松緑)、校歌、ますらお等々を蛮声をあげて歌い、お開きとなります。同窓会から漕艇部OB会へ活動の援助金を賜りましたこと誠にありがとうございます。ここに活動状況のご報告と御礼を申し上げます。

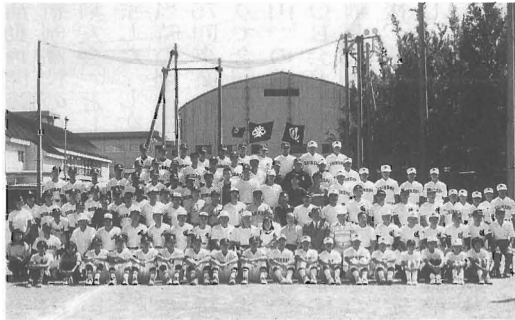
第二十回 青山・葦原定期戦 青山野球倶楽部 77回 大塚 忠雄

恒例の青山・葦原定期戦を本年も、八月十一日(日)新商グランドにて行いました。雨に降られたり、コンマーションクラブが全国大会に出場されたりした為、何回か中止せざるを得ない年もありましたが、今回で再開してより二十回目の定期戦を行う事ができました。当日は天気にも恵まれ(恵まれ過ぎて猛烈に暑い日となり、高齢OB?の病人発生を危惧する声もあがりました)葦原、碓会長、青山、清野会長(38回卒)代理として宮川幹事長(58回卒)の挨拶、物故会員への黙禱、OB現役合同記念撮影と続き、始球式と進みました。今回は節目の年であり、又、両校現役選手諸君の甲子園出場を祈念する意味で、青山OB(61回卒)でもある長谷川義明市長に始球式の投球をお願いしたところ、心よく了解していただきました。当日、かわいらしい孫娘さんの手を引いてグランドにお見えになり、見事なストライクをご披露になりました。バッターボックスには、こちらもOB(66回卒、当倶楽部顧問)の吉田六左エ門氏(現

時点では、めでたく当選され衆議院議員となられました。が入れられ、見事な空振りをして下さいました。尚、懇親会の席にて六左エ門氏曰く、「市長選で負け、今日またバッテリーボックスで空振りをしなければならぬのは、非常にいやしい事でありました。」との挨拶に、参加者一同大笑となりました。

試合の方は、新チーム（一、二年生）定期戦において、2対1で新商の勝ち（後日、秋の北信越大会では3対2で県高の勝ちで、キッチリと借りを返したそうです）、OB戦は13対12で、こちらも葦原の勝ちという青山側には残念な結果となり、新調されたカップを召し上げられてしまいました。しかし篠島一衛先輩（旧制56回、新制57回卒）、小黒昌一先輩（62回卒）達、当日観戦組のネット裏よりの声援（ヤジという声もあり）に比べ、大橋恒夫先輩（61回卒）田村誠一元監督（62回卒）湯浅一平先輩（63回卒）をはじめ諸先輩方の若々しい華麗なる珍プレー、又若手OB達の力強い好プレーを随所に見せ、実に楽しい試合となりました。表彰式後、青山、葦原のOB一同、本間健康ランドに移動し、文字通り裸のつき合いをしてから、懇親会を開きました。懇親会では甲子園出場

という錦の御旗の有る葦原側に押され気味でしたが、誰も甲子園に出場した事がないという青山側のチームワークの良さ？で盛り返し、酒量、高歌放吟双方引き分けとなり、来年の再会を約し、母校の甲子園出場を願いつつ散会となった次第です。



昭和のプール お別れ会

青山水友会総会

水泳部OB会 正式名称を青山水友会という。代表は大黒善

弥（50回）さん、事務局長は横瀬功（旧姓佐藤66回）さんで、新中時代からつづいている伝統ある水泳部のOB会だ。会員名簿に名を連ねている人数は多く32回から104回まで二百六十六人

で、総会と会報発行が事業の一つである。

一九九六年八月一日に総会とかねて「昭和のプールお別れ会」を行なう案内が出された。水着をご用意の上、という追記もされていた。

「昭和」のものは、一九三三年七月二十二日に竣工され、二十五mコースのプールは今日まで親しまれてきたが、校舎新築のためにこわされることになったのだ。この日集まった人は、大先輩の宮村定男（39回）さんから年少の市井聡子（101回）さんまで四十八名、顧問三名、来賓十六名、現役生徒二十七名という、ほぼ百人近い人で、スタート台後方の特設テントに整列した。物故先輩哀悼、式辞、来賓祝辞は新潟中央高OBの藤村陽子さんと新潟明訓高OBの菅野泰さんとつづいた。そして現役部員へは新しい部旗も寄贈された。最後に「紅の輝（ふんどし）しめて月の夜に西瓜を盗む……」と部歌を全員で高らかに斉唱してセレモニーを終えた。

来賓 というのは、一九四九年頃から、自校にプールがないという理由でこのプールを借りにきていた新潟中央高校の水泳部OB、呉竹会のことである。このような混浴の状態は数年間つづいた（註）。お別れ会に参

加した呉竹婦人は十一名。同じような理由で、新潟明訓高校も一緒に練習していて、こちらは緑泳会と言ひ男五名の参加であった。

交歓水泳 いよいよ泳ぎおさめである。まず、最近マスターズ日本新記録を樹立された青山水友会会長の大黒善弥さんが記念泳法を披露された。昔にかわらない短距離選手の力強い泳ぎであった。後は全員がチームにわかれて二十五mずつの無制限リレーで、これにはまいった。疲れて次々と脱落者がでるので、すぐ順番がまわってきってしまう。

中央高校のOBのお母さん達もプカプカ浮いている。わーけえねつけ、昔と変わりねえええ。あらほんと？あなたたちも若けえわあ、変わらんわあ。若くなんかはない、お互いにお世辞とわかってるのだが、この際やむを得ないのだ。

陳情 プールからひきあげてこの後、場所をかえて全員で懇親会となった。そこでひとつの提案がなされた。それは、新しいプールが完成するまでの五年間、現役の部員は泳ぐところがないのだ。これは痛手だ。

青山水友会の名のもとで、かわりのプールを確保してもらおう、学校長に陳情することに

きまった。女どもに七年間も貸したんだから今度は五年間中央高校へ通う番だ、という甘美にして過激な発言もあった。むこうは承諾しないんと。

大黒会長はきつぱりと答弁されて陳情文案を読みつづけられた。あとは、呉竹会の皆さん方のやさしいお酌で「過激」はたちまち萎（な）えていった。（註）本紙34号（一九八二）ハイティーン水泳新中高。（文責 平田大六）

青山剣友会について

青山剣友会事務局代表

88回 宗村 信明

改めて言うまでもないことですが、「青山剣友会」とは、旧制新潟中学校及び新制新潟高等学校剣道部のOB会です。

剣道部の歴史は古く、母校開校翌年の明治二十六年に「撃剣部」として創設されました。「野球部」、「柔道部」、「漕艇（ボート）部」と並ぶ「創立四部」の一つで、ほぼ母校と同じ百年の歴史を誇る伝統ある部です。創設当時の師範は江戸時代生まれの「本物の侍」で、稽古も現在の「剣道」に比べて相当荒っぽいものだったようです。戦前、特に大正時代末期から昭和十年代前半は剣道部の黄金時

代で、県内の試合での優勝はもちろん全国大会でもしばしば上位に入賞しています。また、卒業してから親善使節としてアメリカやドイツ・イタリアへ渡り、現地で日本の武道としての剣道を披露してきた名剣士もいます。

戦後はGHQにより剣道が禁止され、剣道部は一時解散を余儀なくされます。昭和二十八年に剣道部は復活しますが、練習場所もない状態で、部の再建（特に競技レベルの向上）の道のりは容易ではなかったようです。しかし、昭和五十年代の中頃から長年の強化策が実り、個人戦ではインターハイ出場選手五名（うち女子二名）、団体選手二名を輩出し、団体戦でも県大会優勝一回、北信越大会準優勝一回など、ほぼ戦前の水準に追いついたといったところで。

剣道部が他の部と大きく違うのは、母校の道場の外に「斎藤道場」という「城」があったことです。斎藤道場というのは、新潟市の実業家、故斎藤庫四郎（喜十郎）氏が、新潟市上大川前通八番町にあった新潟銀行（現在の第四銀行の前身の一つ）の社員用屋内運動場を、大正時代に行の改築の際に市内の東堀七番町の自宅裏手に移築して町道場としたものです。同氏は新中剣道部出身（12回卒）で新

中剣道部出身（12回卒）で新

瀧の大財閥齋藤家の当主でした。齋藤家の邸宅は東堀通りと新堀通りの交差点に面した角地（N T Tビルの隣）について最近まで残っていました。一昨年立休駐車場ビル建設に伴い取り壊されてしまいました。道場は、間口四間・奥行き六間のごく小さなもので、昭和三十年の新潟大火の際に焼失しています。この狭い道場に、大正時代の終わり頃から、新中剣道部の特練生（レギュラー選手及びその候補者）が学校での稽古が終わってから通うようになり、大変賑わっていたそうです。当主の庫四郎氏は五段正錬士の腕前（当時の剣道の段位は五段まで）で、大

人と酒を飲むよりも、少年たちと剣道をしているほうが好きという無類の剣道好きでした。同氏は新中の剣道部の遠征費用を無償で負担してくれたり、卒業生の進学や就職の世話までしてくれたりです。剣道部員は卒業後もここに集まって稽古をしたり酒を飲んだりしていました。彼らを中心とした大人の稽古も非常に盛んで、「全国官庁実業団剣道大会」に「齋藤合名」という架空の会社名で出場し、昭和十二年には優勝までしています。このように、齋藤道場は剣道部の現役部員とOBを何代にも渡って一つの連続した流れと

してつなぎ合わせる役目を果たしたので。 剣道部のOB会がいつごろから始まり、いつから「青山剣友会」という名称を使うようになったかは定かではありません。しかし、この齋藤道場を中心とした剣道部OBの活動（後輩の指導や自らの稽古）がいつしか「青山剣友会」となったことは確かです。

戦後、剣道部はGHQの指示で中断した時期があったため、活動再開後も暫くは旧制中学と新制高校のOBが別々に「青山剣友会」として会合を開いていました。しかし、昭和五十年頃、当時の剣道部長広沢岩夫先生や75回卒業の上田茂氏等のお骨折りで合同が実現しました。「青山」の道場を共有する剣道部のOB会として、名実共に「青山剣友会」となったのです。その後、昭和五十八年に規約を制定し、組織・財務等の体制を整備して現在に至っています。新体制の初代会長には平石恒夫氏（33回卒）、副会長には相馬雄三氏（35回卒）が選ばれました（相馬氏は一昨年逝去）。二代目の会長は大藤一夫氏（44回卒）でしたが、昨年病没され、現在空席となっています。副会長は村島滋氏（52回卒）です。現在の会員数は約五百人。会員相互

の親睦及び母校現役剣道部員の援助を活動の目的とし、毎年八月に総会、一月に新年会を市内の白山会館で行っています。どちらも毎回四十人から五十人の出席者があります。八月十日に開催された平成八年度の総会には、初代会長の平石氏（八十九歳）も久しぶりに元気な姿を見せ、年が五倍近くも離れた若い会員と剣道談義に花を咲かせていました。また、恒例のOB・現役合同稽古が同日の午前中に母校剣道場で行われ、猛暑の中、気迫のこもった稽古が繰り広げられました。

ここまでは、どこの部のOB会でも行っていると思います。が、青山剣友会の活動はこれだけにとどまりません。剣友会は齋藤道場以来の伝統に従い、県内のいくつかの試合に「青山剣友会」選抜チームを派遣しています。昨年の新潟市民剣道大会では三回目の優勝を決め、市内でも最強のチームの一つに数えられています。また、当会の機関紙である「青山剣友会会報」を年に二回発行し、全会員に剣道部の活動や会員の近況、新潟の最近の話題等を伝えています。更に、不定期の発行になります「総合雑誌「青山剣友会誌」を過去四回発行しています。特に、平成四年十二月刊行の第四

号は「剣道部百周年記念号」として剣道部百年の歴史を総覧し、次の百年を展望するという野心的な試みを実現した大事業でした。会の内外四十人余りからの寄稿に、新たに発掘された資料等に加え、二百ページのボリューム以上の内容が盛り込まれた力作です（ご希望の方には実費でお分けしますので、事務局までご連絡ください）。

このように多彩な活動を繰り広げている部活動OB会は恐らく我が青山剣友会だけではないかと自負しておりますが、それを支えているのは、明治以来の百年の歴史と伝統を自らの精神的な資産として継承してきた、歴代の剣道部員たちの歴史認識ではなかつたかと考えております。今後とも、母校剣道部の発展を祈って活動を続けていきたいと思っておりますので、皆様からの御支援をよろしく願っています。

母校キャンパスは今

◎校舎改築について

今回はスケジュールはもういいことにします。計画はすでにあり、いずれ順次着工・完成していくことですが、まだ五年かかることでもありません。念のためとりあえずの予定は、
○平成九年三月プレハブ完成。
○同月二十七日、二十八日校舎引越。
○平成九年四月〜七月旧校舎取り壊し予定。
○同七月から、管理・教室棟、セミナーハウス建設工事（十八カ月）というところです。それより、いよいよ着工し、現実に槌音が響き始めた現状を少しルポ風に報告してみたいと思います。
プールが消えた
もちろん予告はありました。この会報のどこかに出ているはずですが、夏、水泳部がお別れの大会を開いていました。だがプールがないのを目のあたりにすると全く違う気持ちにさせられます。
毎日が工事で、どの程度進捗しているのかは意識の外でしたが、たまたま文化祭の書道展示を覗ようと西校舎に回って、窓の外を見て息を呑みました。ない、のですね。あるべき所に、プールが。大して大きくもない、そして思っていたよりもうんと浅い、穴があるだけ。反射的に夏の水泳部の大会の賑わいを思い出していました。OB、OGとして現役がフルレインを使って競泳。テントからの掛け声、やじ。スピーカーのアナウンス。全く同じ場所から、真夏の直射日光を避けるためですが、なぜか隠れるようにして、眺めていたのです。
その日は書道より窓の外、でしばらく見ていました。昭和八年と聞いていますから、まず現存する最古の建造物が消え去ったこととなります。今は冬、プール跡は何の変哲もない浅い穴のまま次の時代の建物を静かに待っているかのようです。
詰所ができた
学校町通りから巨大・長大な重機類が入り込みます。で、何よりも生徒の通学の安全のために、係員が交通整理にあたっています。正面玄関の脇にその詰所ができました。昔の兵舎の衛兵詰所そっくりです。よくは知りませんが。
幸いなことに、その車両の出入りを含めた工事の騒音は思ったほどではありません。校舎取り壊しになったらどうでしょうか、今のところプレハブ資材搬入・組立の段階では授業に支障のある物音はありませんし、目立つ苦情もありません。おそらく工事関係者はかなりの配慮をしているのではないかと推測されます。
従って、詰所の係員は比較的に閑です。特に日中車の通行が（次頁4段目へつづく）

《寄稿》 日本ライセンス協会

イーザイ(株)的財産部長・弁理士

67回 屋代順治郎

皆様にはL・E・Sと言われ
てもピンとくる人はすくなく
思われます。L・E・Sとは
Licensing Executive Society
の略で、ライセンス即ち新技術
の移転(一般のメーカーの方
は、新技術・新製品の導入・導
出と言った方が分かりやすいか
も知れませんが)に係る国際的な
組織で、世界約三十ヶ国の会員
約八〇〇〇名より構成されてい
る非営利団体です。

これを受けて日本でも、日本
ライセンス協会という組織を有
し、会員数は現在四百名を越え
ています。構成は企業のライセ
ンス・特許関係担当者が約七割、
残りが弁護士・弁理士並びに学
者・コンサルタント等となつて
います。

私は現在L・E・S Interna
tionalの医療部門会の副委員
長並びに日本ライセンス協会の
理事として国内外の活動に深く
参画しています。

今年度の日本ライセンス協会
の年次大会がさる七月十二、十
三日に新潟市のオークラホテル
で開催されました。私にとつて
は昭和三十四年に新潟を離れて
以来、久しぶりの業務出張とい
う形で新潟市を訪れたことにな

ります。もちろん新潟には毎年
二、三回来ていますが、これは
全て私用です。

特にこの頃は中学(寄居)・
高校のクラス会や同期会等が活
発に行われているため、これに
出席することも多くなり、新潟
市に来る主目的の一つになつて
います。

クラス会や同期会では何十年
ぶりに会う人も多く、昔話に花
を咲かせ楽しい一時を過ごすこ
とが出来るのは、ある一定以上
の年齢になられた同窓会の皆様
には共通のことと思います。

さて、年次大会に出席の方は
新潟が初めてという人も多く、
新潟の土産では何が良いかとい
ろいろきかれました。そこで新
潟の特産品をいくつかあげてみ
ましたが、一々説明しているよ
りも現場を見せた方が良いと思
い、年次大会の終わった土曜日
の午後、本町の市場に十数人を
連れていきました。

本町市場では枝豆・コシヒカ
リ・のどぐろ・丸茄子・笹団子
などを紹介し、それぞれ自由
選択に任せました。

七月半ばの土曜日の午後、本
町市場に背広姿の紳士の一団が
現れ野菜類を買いあさっている

姿は、見様によつては異様な光
景に見えますが、最近の社会情
勢を反映してか、売る方も買う
方も、あまり恥ずかしそうもな
く自分の好きなものを選んでい
ました。

後日、何人かの人に新潟の品
物について聞いてみました。枝
豆を買って行った人は、最初奥
さんに「何でこんなにたくさん
買って来たの」と言われたが、
食べた後に「何でこんなに美味
しいものをなぜもつと買って来
なかつたの」と言われたとか、
またある人は、「コシヒカリが
あつたのならばなぜ宅配便にでも
して送ってくれなかつたのか」
と言われたとのことでした。

その中の極め付けは、今年
の夏に奥さんを連れて新潟に行
く羽目になったという人です。
新潟にお住まいの方が、日ご
ろ何気なく食べているものでも
東京で暮らしている人にとって
は大変新鮮で美味しいものであ
ることを改めて認識する次第で
した。

いずれにしましても、日本ラ
イセンス協会の年次大会が新潟
市で盛大に行われ、地元新潟県
の関係団体からの歓迎も受け成
功裡に終わることが出来たと共
に、出席者の幾人かに新潟市並
びに新潟の味を紹介することが
出来、喜ばれたこと良い副次効
果があつたと思つていきます。

(前頁よりつづく)

少ないときはすることがありま
せん。だからといっていなくて
もいい、というわけにもいきま
せん。その意味でなかなか大変
な仕事です。お陰で前庭がきれ
いになりました。よく竹ぼうき
で掃いてくれます。そしてまた
これが授業中の生徒たちの絶好
の息抜きになっています。やれ
おじさんが落ち葉の観察をして
いた、雀とたわむれていた。有
り難い授業を聞きもしないで。
大変動の片隅での、ささやかな
平和。

グラウンドがなくなる

これもかねて予定の、ことで
した。しかしやはりショックで
す。計画では約半分ということ
なのですが、工事のじゃまにな
らないように校舎側から眺める
かぎりには、グラウンドの土がみえ
ません。穴を掘り基礎をつくり、
資材を並べて組み立てる。グラ
ウンド全体が工事現場です。現在
は第一体育館の途中からネット
を張って野球場の一部を一応確
保した形にはありますが、
とてもグラウンドと呼べるもので
はありません。この稿が皆様の
目にとまる頃にはプレハブの外
観は完成しているはずですが、二
階立ての仮校舎の威圧感はどう
なるのでしょうか。今年六月の青
陵祭はよほど心してかからなけ
ればなりません。

編集後記

けずり実施できるよう最善を尽
くしたいものです。
(69回 山田栄 校内幹事)

◎国會議員に66回吉田六ざえも
ん氏。苦節〇〇年、ついに栄冠。
おめでとうございます。

◎叙勲に、日報文化賞にと、同
窓の榮譽、うれしいことです。

◎会報と会費納入のお願いを会
員全員に送ったら新しい会費納
入者がたくさん増えました。あ
りがたいことです。感謝します。

◎そこで、現役のクラブと先輩
の交流にと同窓会からささやか
な補助金をOB会に進呈したら、
その報告記がたくさん来ました。

◎同期会も盛んです。思い出の
校舎が無くなる前に、恩師の授
業を再びなどなど。出席者の名
前や、写真の名前説明を紙面の
都合で、カットしたことをお許
しく下さい。初めての同期会開
催は83回卒。幹事役ご苦労様。

◎惜しまれて恩師逝く。菅原、
沢山、斎藤の各先生、教え子の
心にそれぞれの思い出を残して。
更に、63期の会で元気に授業を
されたこと記されている高橋是成
先生も十二月に突然。ご冥福を
お祈りします。

◎会報が会員を結ぶ絆となるよ
う願っています。会員からの投
稿(コンパクト)をお待ちし
ています。

◎推薦制度導入
平成七年度、理数科が新設さ
れ、その半数(20名)を推薦で
選抜するようになったのに続き、
平成九年度から普通科でも推薦
制が導入されます。募集定員は
入学総定員の15%(54人)以内
となっています。
最初の面接試験がこの二月三
日に行われます。未知の部分が多
いのですが、使用教室などは一
般入学力検査と同じ規模にな
ることが予想されます。
現校舎も最後のご奉公という、
一番慌ただしい時期でもあり、
混乱せずに、受験生に不便をか
かれないよう最善を尽くしてい
たいものです。

(石)

会員の住所調査 のことなど

幹事長

67回 石田 瑞穂

皆様ご存じのように同窓会では、創立百周年の記念事業として、平成四年の九月に同窓会会員名簿を発行致しました。この名簿の発行の前は九十周年に発行されたので、その間十年間の会員の住所異動が多くあり、その調査に大変な手数を要しました。そこで、次の発行に備えて中間の調査をしておくことが良いだろうということから、昨年の夏に百周年の名簿住所に基づいて、住所などの確認調査を行いました。

ちょうど同窓会では、平成七年度の総会で、鍵富清一郎会長の後を受けて、四期八年務められた鈴木正二会長が退任され、新しく上村光司会長に変わりました。それに伴い副会長、幹事長などの役員の一部変更交代もありましたので、それらを同窓会員にお知らせする必要もあるだろうということで、「青山同窓会会報の第六十二号」と、毎年行われる七月の総会、一月の新年会の事、会費の事、会費納入の方法などのお知らせと併せて「会費の振り込み用紙」をお送り致しました。

その結果、届いた住所変更届のハガキに基づき、現在会員名簿の原簿（コンピュータ）の訂正作業が終了いたしました。同期会などのご案内の宛て名シールなども打ち出せるようになりました。ご用命ください（実費はかかります）。また、今までは毎年二千二百〜二千三百人の会員の方から会費の納入があったのですが、今回の同封された納入用紙を使って、新たに同窓会費を振り込んで来てくださった人が約千六百人ありました。

大変ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。今まで会費の納入方法を知らなかった人、同窓会から連絡をもらったことがなかった人、会報を見たことがなかった人など、いろんなコメントも届きました。会員との新しい絆も生まれたようです。会費を払って応援してくださいます会員の熱い心に応えるべく、会長以下役員、そして各期幹事も張り切っております。

母校では改築に向けて、工事が始まっています（別記「母校キャンパスは今」をご参照ください）。同窓会事務局もあの懐かしい青山会館の二階から、二月二十一日に引っ越してプレハブの仮住まいとなります。しかし電話番号、事務局の三浦さん

もそのまま変更ありません。我が青山同窓生は全国各地に活躍しています。それだけに住所の異動なども激しいことでしょう。今後とも住所、勤務先、仕事、など変更がありましたら、

ハイティーン水泳

新中・新高 24

42 故郷へ錦

一九五〇年八月、私は、長岡での県高校水上選手権大会の優勝賞状を持って郷里の関川村へ帰った。大黒善弥監督（50回）の許可を得た一時帰郷である。

この時、同じ水泳部の江口良助（61回）と明訓高校の菅野泰選手が、私について来て数日間関川村の私の自宅に滞在した。わーり（悪）こと教えんな。川で泳がすなよ。ハイハイ。

大黒監督にきつくいわれながらも、私たちは上（うわ）の空であった。汽車から降りて、二

キロほどの夏の砂利道を歩いて、家につくと、すぐ荒川へとんでいった。「選手凱（がい）旋」の情報はすでにまかれていて、近所の子供たちが大勢私たちと一緒に、

事務局宛、ハガキ、FAXなどで（後で記録が残るように）お知らせくださいますようお願い致します。会報への寄稿、同窓会へのご意見なども併せてお願い致します。

60回 平田 大六

川へおりの夏草の小径（こみち）を歩いてついてきた。私たちは石コロの川岸でわざと時間をかけて「本格的」な準備体操をした。それをじっと見つめる子供たちの目。しかも選手は、私一人ではなくて、江口、菅野のおまけつきなのだ。

やがて入水の儀式、胸と背中にピタピタと手で川の水をつけるや、三人で水に飛びこんだ。ダダダダ……。一気に数十メートルの急流を泳ぎ切って対岸に着いて立ちあがる。もとの岸辺で棒立ちになって動かない子供たち。私たちは「大選手」であった。

おまえらも泳いでこいやあ。子供らも一斉に飛びこんだが、これは、ダダダダ……というわけにはゆかない。抜き手を切る子、流れの中で蛙のようにヒラヒラしてしまおう子、激流をあき

らめてひき返す子。再び私たちも泳ぎ帰って、子供らもついてきた。私たちが石の上を歩くと、とりまく子供らの輪も移動する。全員そろったところで、ワッハッハッハ。子供らも、わけもわからずに、アッハッハッハ。

これで私たちの選手紹介と戦勝報告のセレモニーはなんとなく終了した。そのあとは、プールやレースの話、体が熱くなればまた飛びこむ、こんな川遊びが日の暮れるまで連日くりかえされた。そして、子供達の水の中での手足の動かし方が、いつの間にか私たちのそれに似てきているのに気がついた。

43 江口良助(61回)のケガ

私たちは川遊びから帰ってくと、母のつくってくれた夕飯を腹いっぱい食べてから、蚊帳（かや）のなかでいつまでもしゃべくっていた。話はたわいもないものではあったが、やがて旬日後にむかえる国体予選会のことであったり、その準備のために間もなくはじまる大黒監督による猛練習への怯（おび）えであったり、時には一緒になってプールで泳いでいる中央高校の女子選手のことであったりした。

このような、ツカノマの楽園

のつづいたある日、その川で、突然大変なことがおこった。それは、江口良助が水中護岸用材の上に乗って倒転したのだ。その時に木材をしばらくつけていた太い針金の先で大腿（たい）部を深く引き裂いたのである。手当はすぐした。

それが、地元の医者であったか、自家であったか、今の私には記憶がないが、大きすぎた。包帯をまいておよくしかない。しかし、

体に不要なものが巻きついてくる状態では、水という流体の流れにある種の抵抗が生じて、泳ぎの速度に影響する。手首に輪ゴムを一個巻いていただけで、水を掻（か）くその手首に気泡がついていった例を私は知っている。このことはこの連載の⑥本紙四〇号（一九八五）でも書かせてもらった。

これを知った大黒監督の叱（しつ）責はすごいものであった。江口も私もきびしくやられた。江口は包帯を巻いて練習しはじめたけれど、痛みもとれてはいない。江口の出場が危ぶまれ、そして、私のほうは、佐渡高校のライバル武田選手との対決の日が次第に近づいてきた。（つづく）

現役の活躍

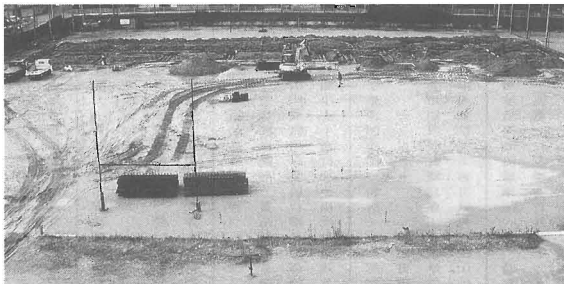
平成8年度 部活動 大会結果報告

《新潟県高等学校総合体育大会》

- ☆陸上競技部
400M 2位石倉 淳/800M 2位荒城信介/4×400MR 5位(高橋・荒城・大越・石倉)/100M 5位阿部幸子/ 800M 6位/3000M 4位太田理英/4×100MR 4位(阿部・和田・坂野・山岸)/女子トラック総合 6位
 - ☆水泳部
100M平泳ぎ3位、200M平泳ぎ3位齋藤拓也/男子400Mメドレーリレー5位/女子400M個人メドレーリレー 5位高山香織
 - ☆男子バスケットボール部 2回戦進出
 - ☆女子バスケットボール部 2回戦進出
 - ☆男子バレー部 2回戦進出
 - ☆女子バレー部 3回戦進出
 - ☆ソフトテニス 男子団体ベスト16/女子団体2回戦/男子 吉井・森田組ベスト16
 - ☆卓球部 男子ダブルス 植木・笠原組、須藤・柿崎組 1回戦敗退
 - ☆バドミントン部 男子1回戦敗退/女子2回戦進出
 - ☆サッカー部 ベスト16
 - ☆ラグビー部 3位
 - ☆柔道部 男子団体戦決勝トーナメント 1回戦/女子予選リーグ敗退/軽量級 3位高野 剛
 - ☆剣道部 男子、女子 予選リーグ敗退
 - ☆レスリング部 63kg以下級 1回戦敗退
 - ☆山岳部 3位
 - ☆テニス部 男子団体 ベスト8/女子団体 1回戦/男子ダブルス 八木・渋谷組 ベスト8/男子シングルス 3回戦進出八木幹夫/2回戦進出 渋谷 圭、中川成久/女子シングルス 3回戦進出 瀬谷菜穂子
 - ☆フェンシング部 フルーレ2位、サーブル2位川口太一郎/サーブル6位北見 光/エペ3位川合健太郎、4位小池上芳彦、5位加藤雄亮/フルーレ2位湯沢美樹、3位本田 茜、4位高橋亜矢子、6位林 真理子/エペ 1位本田 茜、3位高橋亜矢子/男子団体 2位/女子団体 2位
 - ☆ボート部 シングルスカル 2位大槻道男 3位樋口匡俊/舵手付フォア 2位/ダブルスカル 1位星野・坂井組、2位田才・吉岡組/学校対抗 1位
 - ☆空手部 女子団体組手3位/女子総合3位
 - ☆野球部 3回戦進出
- 《北信越大会》
- ☆陸上競技部 800M 4位荒城信介
 - ☆柔道部 軽量級2回戦進出 高野 剛
 - ☆ラグビー部 2位
 - ☆山岳部 優秀校
 - ☆フェンシング部 フルーレ ベスト8川口太一郎/エペ 4位本田 茜

- ☆ボート部 シングルスカル 予選敗退 大槻道男/舵手付フォア 予選敗退/ダブルスカル 予選敗退
 - ☆水泳部 100M平泳ぎ4位、200M平泳ぎ4位齋藤拓也/400Mメドレーリレー 7位(齋藤・宮内・高橋・山田)
- 《インターハイ出場者》
- ☆陸上競技部 800M 荒城信介
 - ☆フェンシング部 フルーレ 川口太一郎、湯沢美樹/エペ 本田 茜
 - ☆ボート部 ダブルスカル 星野・坂井組
- 《文化部》
- ☆囲碁部 県高校春季囲碁大会/Aブロック優勝 中俣正毅/Bブロック優勝 太田 滋/Cブロック優勝 小池仁/Dブロック優勝 塚田 健/男子団体優勝(庭山・塚崎・中俣)/女子団体優勝(渡辺・藤木・五十嵐)/男子団体、女子団体全国大会出場/男子個人(庭山・塚崎)全国大会出場/全国高総文祭に5名出場
 - ☆放送部 NHK杯 創作ドラマ、ラジオ部門 1位 ラジオ番組、課題部門 2位 アナウンス部門 奨励賞 NHK杯全国大会出場(ラジオ部門、課題部門) 全国高総文祭に出場
 - ☆軽音楽部 新潟県吹奏楽コンクール 銅賞
- 《総体以降夏休みまで》
- ☆野球部 夏の全国県大会 ベスト8
- 《夏休みから現在まで》
- 《運動部》
- ☆陸上競技部 第27回ジュニアオリンピック陸上競技大会 男子Aクラス800M 3位荒城信介
 - ☆テニス部 県ダブルス選手権 ベスト4 風間純一・江花陽平組/県シングルス選手権 ベスト8 今井径卓
 - ☆ボート部 北信越国民体育大会漕艇競技会 少年男子ダブルスカル5位 坂井・星野組/秋季漕艇大会 女子ダブルスカル4位 沢田・木島組/第30回毎日杯争奪信濃川レガッタ 高校女子ダブルスカル2位沢田・木島組
- 《文化部》
- ☆物理部 フィールドディーコンテスト 社団局A 信越1位、全国11位
 - ☆読書感想文 県コンクール 第1類 最優秀1年遠藤貴樹/優秀 1年中川 淳 第2類 最優秀1年 小橋川嘉樹
 - ☆囲碁部 全国高等学校囲碁選手権大会(東京・7月)/全国高総文祭囲碁部門(北海道・8月)/県高校秋季囲碁大会(新潟・11月)
 - ☆将棋同好会 県男子団体優勝/全国高総文祭出場/全国高文連将棋新人戦大会新潟県予選会 男子個人戦3位野崎達生

作業のはじまったグラウンド



消えたプールのあと



プレハブ校舎づくり



ここにプールがあった



平成八年度青山同窓会会費納入者名簿1

(4月より12月上旬まで納入済みのもの)

未納の方は3月までに納入下さるようお願い致します。1口1,000円できるだけ2口以上をお願い致します。

(郵便振替口座 0065-7-4455 青山同窓会) (第四銀行学校町支店口座 0275210 青山同窓会)

- List of members and their addresses, including names like 夫可一郎, 昭隆伸浩, 海山本, etc., and their respective locations.

志洋美 S60年 達 康和 H1年 330名 内93回 西田 河小北 宇

賢也已子... 正正俊佳... 橋松木野川島... 高野坪中... 美博子子... 武雅イ昌... 山戸村沢本... 富中仲中... 康和和... 山橋尾... 樹松横... 泰成厚... 正一... 橋村谷尾... 高田土寺... 謙夫博... 茂正... 木木山内... 鈴鈴鈴... 一子作... 正了順... 田林村... 神神北... 与理男... 正真滿... 城川口... 西野長... 隆雄城... 義春和... 野田間... 広本本... 子聰聰... 井川原... 酒佐佐...

山戸村沢本... 富中仲中... 康和和... 山橋尾... 樹松横... 泰成厚... 正一... 橋村谷尾... 高田土寺... 謙夫博... 茂正... 木木山内... 鈴鈴鈴... 一子作... 正了順... 田林村... 神神北... 与理男... 正真滿... 城川口... 西野長... 隆雄城... 義春和... 野田間... 広本本... 子聰聰... 井川原... 酒佐佐...

山戸村沢本... 富中仲中... 康和和... 山橋尾... 樹松横... 泰成厚... 正一... 橋村谷尾... 高田土寺... 謙夫博... 茂正... 木木山内... 鈴鈴鈴... 一子作... 正了順... 田林村... 神神北... 与理男... 正真滿... 城川口... 西野長... 隆雄城... 義春和... 野田間... 広本本... 子聰聰... 井川原... 酒佐佐...

山戸村沢本... 富中仲中... 康和和... 山橋尾... 樹松横... 泰成厚... 正一... 橋村谷尾... 高田土寺... 謙夫博... 茂正... 木木山内... 鈴鈴鈴... 一子作... 正了順... 田林村... 神神北... 与理男... 正真滿... 城川口... 西野長... 隆雄城... 義春和... 野田間... 広本本... 子聰聰... 井川原... 酒佐佐...

山戸村沢本... 富中仲中... 康和和... 山橋尾... 樹松横... 泰成厚... 正一... 橋村谷尾... 高田土寺... 謙夫博... 茂正... 木木山内... 鈴鈴鈴... 一子作... 正了順... 田林村... 神神北... 与理男... 正真滿... 城川口... 西野長... 隆雄城... 義春和... 野田間... 広本本... 子聰聰... 井川原... 酒佐佐...

山戸村沢本... 富中仲中... 康和和... 山橋尾... 樹松横... 泰成厚... 正一... 橋村谷尾... 高田土寺... 謙夫博... 茂正... 木木山内... 鈴鈴鈴... 一子作... 正了順... 田林村... 神神北... 与理男... 正真滿... 城川口... 西野長... 隆雄城... 義春和... 野田間... 広本本... 子聰聰... 井川原... 酒佐佐...

山戸村沢本... 富中仲中... 康和和... 山橋尾... 樹松横... 泰成厚... 正一... 橋村谷尾... 高田土寺... 謙夫博... 茂正... 木木山内... 鈴鈴鈴... 一子作... 正了順... 田林村... 神神北... 与理男... 正真滿... 城川口... 西野長... 隆雄城... 義春和... 野田間... 広本本... 子聰聰... 井川原... 酒佐佐...

山戸村沢本... 富中仲中... 康和和... 山橋尾... 樹松横... 泰成厚... 正一... 橋村谷尾... 高田土寺... 謙夫博... 茂正... 木木山内... 鈴鈴鈴... 一子作... 正了順... 田林村... 神神北... 与理男... 正真滿... 城川口... 西野長... 隆雄城... 義春和... 野田間... 広本本... 子聰聰... 井川原... 酒佐佐...

山戸村沢本... 富中仲中... 康和和... 山橋尾... 樹松横... 泰成厚... 正一... 橋村谷尾... 高田土寺... 謙夫博... 茂正... 木木山内... 鈴鈴鈴... 一子作... 正了順... 田林村... 神神北... 与理男... 正真滿... 城川口... 西野長... 隆雄城... 義春和... 野田間... 広本本... 子聰聰... 井川原... 酒佐佐...